デーリー東北新聞社 提供

2014年（平成26年）10月25日（土曜日）

図書館に行こう！

郷土色豊かな館内

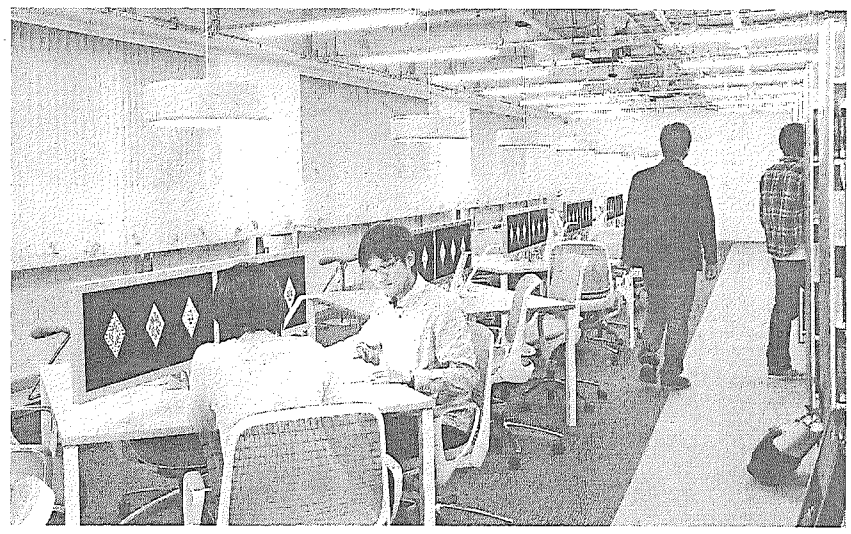
「主体的学習の場」を拡充

弘前大学付属図書館

1949年に大学開学と同時に開館した。総合大学の付属図書館として、文学や歴史などの一般教養から工業、産業などの専門分野まで幅広いジャンルの図書をそろえており、学内だけでなく、地域住民の生涯学習にも役立ってきた。

○○○

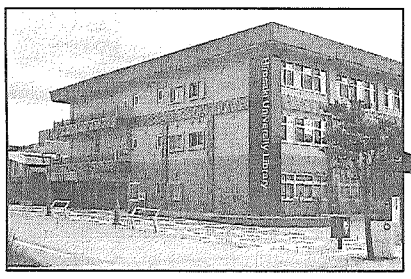
今月1日に約10カ月の改修工事を終えて、リニューアルオープンした。青森県にある国立大学らしく、館内の随所で豊かな郷土色を表現している。青森ブナを利用した「ブナコ」や津軽地方に伝わる伝統工芸「こぎん刺し」、弘前城の春を連想させる桜などを配した。中庭からも光を取り込むなど採光に工夫を凝らし、館内は暖かく、明るい雰囲気だ。

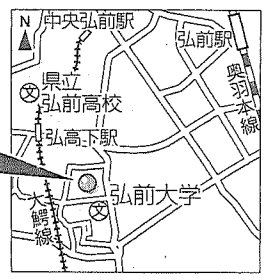


弘前大学付属図書館。こぎん刺しのついたてや、ブナコのランプなど、県内の伝統工芸が特徴的

館内を全面バリアフリー化にした。リニューアル前は2階にあった利用者入り口を1階に移した。点在していたカウンターは出入り口そばに配置し、利便性が大きく向上した。

1階総合カウンターの奥には、窓際にカウンターとテーブルがずらりと並ぶ。こぎん刺しを施したテーブルの仕切りパネル、真上にはブナコの照明を設置した。





改修工事で大きく変わったのは、「ラーニング・コモンズ（主体的学習の場）」を拡充したことだ。

2、3階の「アクティブ・ラーニング・エリア」では、机やいすを自由に移動し、組み合わせてのグループ学習が可能になった。このほか「グループ・ラーニング・ルーム」には、電子黒板やプロジェクターなどがあり、ゼミでの利用もできるという。

以前は館内での飲食を禁止していたが、新設したオープンテラスやラウンジでは飲み物の持ち込みが可能となった。ラウンジを仕切るガラスにぶつからないように桜が描かれている。

大学院教育学研究科社会科1年の三上由希野さん(二四)は「くつろげるスペースができて息抜きになる。勉強がはかどりそう」とお気に入りの様子。同研究科1年の太田睦さん(二三)は「青森の文化などに触れることもできて温かみを感じる。前は本を借りるだけだったが、気軽に友達と来たい」と笑顔で話していた。

（下田由理恵）

メモ

【弘前大学付属図書館】
☆蔵書数　約83万7千冊
（本館と医学部分館合計）
☆開館時間　平日9・00～22・00、土日10・00～17・00
（長期休業期の平日9・00～17・00）
☆休館日　祝日、8月13～15日、年末年始、長期休業期の土日
☆住所　弘前市文京町1
☆電話番号　0172（39）3162

「知の交錯する場所」目指す

――郡千寿子館長

リニューアルオープンした図書館のPRポイントや、今後の運営方針などについて、郡千寿子館長に聞いた。

―改修工事を終え、新たなスタートを切った。

こぎん刺しやブナコなど、館内の随所に青森、特に弘前ならではの〝色〟を出すことができました。利用者が郷土の文化を身近に感じ、興味を持ってくれると期待しています。

―どのような図書館でありたいか。

長年にわたる知識や資料が蓄積されており、国立大学の付属図書館としての自負もあります。知識の交流や思考の活性化に寄与できる場所として、学生や教職員だけでなく、地域に開かれた「知の交錯する場所」を目指します。

―学生や地域住民など利用者に向けてPRを。

インターネットで必要な情報が手に入る便利な時代ですが、そうした環境では想定内の世界しか見ることができません。図書館を散策することで、今まで知らなかった本や資料、専門分野の違う友人に出会い、世界を広げられると思います。自分の可能性を見つけるきっかけとして、付属図書館を積極的に利用してもらいたいですね。